

事業所名

児童発達支援センター 輝なっせ

支援プログラム

作成日

令和7年

1月

31日

法人（事業所）理念		法人理念 感・共・和					
支援方針		私たち児童発達支援センター輝なっせの発達支援“トライアングル” 1. 身辺自立、2. 就学支援、3. 家族支援 ～発達支援を通して「失敗や成功を繰り返す場所」であり、ご家族と共に、子どもさんが自身で「気づく力」、「考える力」、「やろうとする力」、「自分を認める力」を育てる場所～					
概要		児童発達支援センター輝なっせでは、同年代でのクラスに分かれ、発達段階や年齢に応じて「5領域」（言語・コミュニケーション、健康・生活、運動・感覚、人間関係・社会性、認知・行動）に基づいた支援を実施し、子どもが持つ特性や課題に寄り添いながら本児の「強み」を引き出し、成功体験や自信に繋げる支援を進めます。また、家族支援として親子療育を積極的に取り組みます。子どもさんの特性の理解や関わり方等を保護者と共に学び・考え、子育てをする「伴走型支援」に努めます。それぞれの領域における主なねらい、プログラム例、支援内容は以下の通りです。					
営業時間		8時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	あり
項目		ねらい		プログラム例		支援内容例	
本人支援	健康・生活	・健康で安全な生活の基盤作り ・身辺面での自立した日常生活を送る力の養成 ・健康管理や衛生習慣への意識の向上		・手洗い・歯磨き・トイレの自立・着替えの実践練習 ・食事のマナーや道具の使い方の指導 ・身体のリズムを整えるためのリラクゼーション活動		・基本的な生活習慣の形成（食事、排泄、衣服の着脱、清潔保持等） ・自己管理能力の向上 ・健康的な体づくり	
	運動・感覚	・運動能力と体力の向上 ・感覚刺激への適応力の育成 ・自分の身体を意図的に使う力の発達		・ボール遊びやリズム運動 ・ビーズ通しや積み木などの指先を使う遊び ・トランポリン、大型ブランコやバランスボールを活用した感覚統合活動 ・感触遊び		・粗大運動（体全体を使う運動）の強化 ・微細運動（手先や指先を使う活動）のスキル向上 ・感覚統合の促進 ・感触遊び（小麦粉粘土・スライム・かんでん・絵具等）	
	認知・行動	・考える力や理解力の向上 ・自分で目標を達成する経験を積む ・状況に応じて適切な行動を選べる力を育成		・パズルや迷路を使った課題解決遊び ・簡単なルールのあるゲーム ・「待つ」「止まる」「始める」など行動の制御を学ぶ遊び		・注意力や集中力の向上 ・問題解決能力の育成 ・自発的な行動の促進	
	言語 コミュニケーション	・言語理解力と表現力の向上 ・他者との意思疎通を楽しむ力の育成 ・社会的な場面でのコミュニケーションスキルの土台作り		・絵本の読み聞かせや指さし遊び ・音楽やリズムに合わせた言葉遊び ・質問や応答の練習（例：「これ何？」に答える） ・おやつやり取り		・言葉を覚えるための語彙や発話の促進 ・表情や身振り手振りを使った非言語コミュニケーションの強化 （必要に応じてPECSやTEACCHプログラムを使ったコミュニケーション） ・聴く力、順番を守る力の育成	
	人間関係 社会性	・集団活動を通じて協力する力を育む ・社会的なルールやマナーを学ぶ ・他者の気持ちを理解し共感する力を育成		・グループ活動（例：共同製作、リズム遊び） ・ごっこ遊びや役割遊び ・社会的スキルを学ぶ場面練習（挨拶、ありがとうと言う）		・他者と関わる力の育成 ・感情のコントロールと自己表現のサポート ・ルールや順番を守る力の習得	
家族支援		・親子療育・相談・勉強会（ペアレントトレーニング、サポートブック、就学について等）・兄妹児支援等 ・交流会（同じ年代の保護者同士の茶話会等） ※上記を通して、家庭での様子伺い、困り感、関わり方（伝え方）や就学等ライフステージに応じたサポート、助言等を行う。		移行支援		・移行先になる関係機関等への情報の共有を行う事で移行がスムーズに行えるようサポートする。また、就学に向けて学校での生活環境を設定した様々な練習、見学等、丁寧に保護者と一緒に取り組む。	
地域支援・地域連携		・必要に応じて、現在通園している園、療育先、学校、相談事業所、自立支援協議会、市町等との連携を図り、情報共有することで、子どもさんの理解を深め、ライフステージの変化に対応できるよう努める。		職員の質の向上		・事業所、法人内研修（OJT）・事業所、法人外研修（OFF-JT）	
主な行事等		・企画型（社会活動：できるもん年2回程度）・その他					